



8:40 さて、イエスが帰られると、群衆は喜んで迎えた。みなイエスを待ちわびていたからである。

8:41 するとそこに、ヤイロという人が来た。この人は会堂管理者であった。彼はイエスの足もとにひれ伏して自分の家に来ていただきたいと願った。

8:42 彼には十二歳ぐらいのひとり娘がいて、死にかけていたのである。イエスがお出かけになると、群衆がみもとに押し迫って来た。

8:43 ときに、十二年の間長血をわずらった女がいた。だれにも直してもらえなかったこの女は、

8:44 イエスのうしろに近寄って、イエスの着物のふさにさわった。すると、たちどころに出血が止まった。

8:45 イエスは、「わたしにさわったのは、だれですか。」と言われた。みな自分ではないと言ったので、ペテロは、「先生。この大ぜいの人が、ひしめき合って押ししているのです。」と言った。

8:46 しかし、イエスは、「だれかが、わたしにさわったのです。わたしから力が出て行くのを感じたのだから。」と言われた。

8:47 女は、隠しきれないと知って、震えながら進み出て、御前にひれ伏し、すべての民の前で、イエスにさわったわけと、たちどころにいやされた次第とを話した。

8:48 そこで、イエスは彼女に言われた。「娘よ。あなたの信仰があなたを直したのです。安心して行きなさい。」

8:49 イエスがまだ話しておられるときに、会堂管理者の家から人が来て言った。「あな

たのお嬢さんはなくなりました。もう、先生を煩わすことはありません。」

8:50 これを聞いて、イエスは答えられた。「恐れないうで、ただ信じなさい。そうすれば、娘は直ります。」

8:51 イエスは家にはいられたが、ペテロとヨハネとヤコブ、それに子どもの父と母のほかは、だれもいっしょにはいることをお許しにならなかった。

8:52 人々はみな、娘のために泣き悲しんでいた。しかし、イエスは言われた。「泣かなくてもよい。死んだのではない。眠っているのです。」

8:53 人々は、娘が死んだことを知っていたので、イエスをあざ笑っていた。

8:54 しかしイエスは、娘の手を取って、叫んで言われた。「子どもよ。起きなさい。」

8:55 すると、娘の霊が戻って、娘はただちに起き上がった。それでイエスは、娘に食事をさせるように言いつけられた。

8:56 両親がひどく驚いていると、イエスは、この出来事をだれにも話さないように命じられた。

癒しやよみがえりのわざをさなるイエス様は驚くべきお方ですが、しかしそのような奇跡をいただいた人も、やがてはまた死んでしまいます。何よりイエス様のわざで素晴らしいのは、永遠の命を与えてくださることです。

私たちクリスチャンは、このような根本的な永遠の解決が与えられていることに感謝しましょう。その上で、この世のことも、すなわち癒しなども求めましょう。すでに救われているのですから、安心と信頼で求めましょう。

もしもイエス様が遅くなって、この12歳の娘の

ように手遅れのように感じるようなことがあっても、そこには深い主のみこころがあるはずですよ。信頼しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

